● 2015 年の世界の主な火山活動

平成27年(2015年)に噴火が報告された主な火山(日本を除く)*は図のとおりである。 このうち顕著な活動がみられた火山は以下のとおりである。

カルブコ (Calbuco) チリ (図中A) 標高 2,003m

4月22日18時04分に噴火が始まり、噴煙の高さは15kmに達した。噴火を受け、火口から半径20kmの中が避難範囲となり、住民は避難命令を受けた。道路や橋は灰で通行できなくなった。4月23日01時からは2回目の大きな活動が始まった。噴煙は15km以上上がり、火砕流は最長で7km流下し、土石流は15km流れ下った。およそ5,000人の人々が避難し、チリ政府当局は、土石流の心配のため、沢筋から200m以内の範囲には入らないよう警告した。24日以降も噴火が続き、これまでに避難者数は4月24日から26日にかけて6,514人に上った。火山に近いエリアでは、降り積もった火山灰の重さでつぶれた家もあった。また、新聞記事によると、国内外の大都市を結ぶ航空機に遅れやキャンセルが出た。噴火活動はその後低下した。

シナブン (Sinabung) インドネシア (図中B) 標高 2,460m

2013年9月15日の噴火開始以降、噴火活動が継続し、2015年も溶岩流及び火砕流が断続的に発生した。

2月20日には大規模な噴火が発生し、噴煙が海抜13.7kmまで上昇したことが衛星画像等から確認された。また、6月に発生した噴火により、溶岩流や火砕流が山腹を流れ下った。インドネシア当局によれば、この噴火で10,184人が退去や10の避難所に収容された。

シベルチ (Sheveluch) ロシア (図中C) 標高 3,283m

1月及び2月の期間を通して、北山腹にある溶岩ドームの成長が継続し、爆発的噴火が繰り返し発生した。1月は、7日に発生した爆発的噴火により小規模な火砕流が発生した。また10~12日及び15日に発生した爆発的噴火により噴煙が海抜6~10kmまで上昇し、12日には南西に50km離れた村で降灰が確認された。2月は、1日及び8日に発生した爆発的噴火で、噴煙が海抜9~10kmまで上昇した。また、28日には、噴火に伴う火山灰により、西アラスカの数本の航空便が欠航となった。3月以降も活発な噴火活動は続き、火砕流や溶岩流が断続的に発生した。

リンジャニ(Rinjani) インドネシア(図中 D) 標高 3, 726m

噴火は 10 月 25 日から始まった。ダーウィン航空路火山灰情報センターによると、噴煙は南から北西方向にかけて流れた。また、11 月 4 ~ 10 日にかけては、噴煙が海抜 $4.3 \sim 6.1$ km まで上がり、740 km まで流れた。ニュース記事によると、同国のロンボク国際空港は 11 月 3 日から 10 日まで閉鎖されるなど 3 ~ 10 つの空港が一時閉鎖した。観光客や住民は半径 3 km 以内の火口内には近づかないよう警告された。

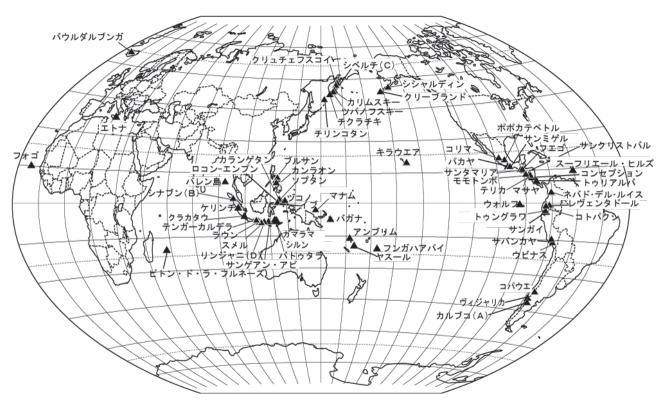


図 平成 27年(2015年)に噴火した主な火山(日本を除く)*

* 米国スミソニアン自然史博物館のホームページ "Global Volcanism Program | Smithsonian / USGS Weekly Volcanic Activity Report" (http://www.volcano.si.edu/reports_weekly.cfm) による。日付は全て現地時間。火山名の 読み方は、原則として気象庁:「火山観測指針(参考編)」による。